

ヴェリタス学習会通信 108

予定表カレンダー →



令和8年3月の予定

- ・月曜日 3月2・9・16・23・30日 大安公民館1階研修室 18:30～21:00
- ・火曜日 3月3・17・24・31日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00～20:30
10日 員弁老人福祉センター1階会議室2 18:00～20:30
- ・水曜日 3月4・11・18・25日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00
- ・木曜日 3月5・12・26日 北勢市民会館1階リハーサル室 18:30～21:00
19日 ヴェリタス事務局 18:30～21:00

藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

10日は同じ施設ですが、いつもと部屋が異なります。

19日は北勢市民会館が取れず、ヴェリタス事務局で行います。



ヴェリタス事務局の所在地は、511-0261 いなべ市大安町丹生川上 650-1 です。

丹生川上集会所（旧丹生川上児童館・教育集会所）内です。

警報が出ている場合は休会にします。いつもその会場に来ている方にはLINE などでお知らせいたしますが、不安な場合はお問い合わせください。

連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189（+メッセージも可能）

メールアドレス：npoveritas@gmail.com

LINE ID：m9s0bay（4文字目は数字のゼロです）

Facebookの「松宮 卓」に友達申請していただければMessengerが使えます。

メールやLINE登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数削減協力のため、できる限りご登録ください。LINEを利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果的な返信ができます。



Zoomなどの会議ツールを利用しませんか



利用が広がっているZoomクラウドミーティングやSkype, Facetime, Google Meetなどを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。

（画像は生成したもので、実在の人物ではありません）

以前につくった英語の名詞と名詞系語句についての中学生用のファイルを上げました。右のQRコードか下記のURLからご覧になれます。

<https://www3.cty-net.ne.jp/~veritas/info25/noun01.pdf>



英語は並べ方が命



日本語には「を」「の」「が」という格助詞や「は」という副助詞があって、名詞や代名詞の後ろにこれがついていれば、主語なのか、目的語なのかがわかります。したがって言葉の順序は、多少入れ替えても意味が通じます。

しかし、英語は主語なのか、目的語なのかは動詞の前にあるか、後ろにあるかなどの位置によって変わってきます。その語が置かれている位置によって、その語の役割が決まります。

5つの文型

英文は、ほぼ次の5つの文型のどれかに当てはまります。

1. S+V SはVする。(S=主語、V=動詞、O=目的語、C=補語)
2. S+V+C S=C、S≒C 「SはCだ」「SはCのように見える」「SはCに感じる」
3. S+V+O SはOをVする。SがOをVする。
4. S+V+Oi+Od SはOiにOdをVする。(Oi=間接目的語、Od=直接目的語)
5. S+V+O+C SはO=CにVする。SはO=CとVする。

骨組みは上のように作ります。その他に副詞系や形容詞系の修飾語句が加わることが多いのですが、それはまた個別に検討して位置を決めます。

先に行われた三重県立高校の英語の前期入試問題を使って単語の並べ方を説明します。

令和8年度三重県立高校前期入試の5番の英作文問題

次のような状況において、あとの(1)～(5)の内容を、あなたはどのように表現しますか。それぞれ4語以上の英文で書きなさい。

ただし、I'mなどの短縮形は1語として数え、コンマ(,)、ピリオド(.)などは語数に入れません。

【状況】

これからオーストラリアに留学する予定のあなたは、留学先の学校の生徒たちから、手紙を受け取りました。あなたは、その手紙への返事を書いています。

- (1) 手紙を受け取ってうれしかったということ。
- (2) いろいろな科目を勉強できるとわかったということ。
- (3) どの科目を選んだらよいか決められないということ。
- (4) 写真について学ぶことに興味があるということ。
- (5) オーストラリアにある有名な橋の前で一緒に写真を撮ろうということ。



解答に至る道筋

(1) 手紙を受け取ってうれしかったということ。

まず、日本語を英文にしやすいように書き直す作業をします。慣れてくれば頭の中でできます。

英語には主語 (S) が必要です。うれしかったのは誰でしょう。私です。これが主語。

「私は手紙を受け取ってうれしかった」という日本語に書き直しました。Sは「私は」、「うれしかった」というのが述語ですが、英語では動詞 (V) が何かというのを突き止めます。「うれしい」は形容詞です。英語では形容詞単独では述語となりません。be 動詞か、look, get などという完全自動詞と呼ばれる動詞と組み合わせて使います。形容詞はそれらの動詞の補語 (C) として後ろに置かれます。SVCの順です。この場合、Vは=の働きをします。「うれしい」は happy か glad なので、I=happy.のような関係になります。今回、「かった」という過去形なので、Iが主語のときの be 動詞 was が=の働きをします。

I was happy. 「私はうれしかった」

2番目の文型ですね。

「手紙を受け取って」という部分は、「うれしかった」を修飾する「連用修飾語」です。英語では「副詞系の修飾語句」になります。

現行のいなべ市の中学校の英語の教科書では、中2の P77 の基本文に同じ型が出ています。不定詞の副詞的用法の1つです。直前の形容詞の感情の原因や理由を表す表現です。“to+動詞の原形+この動詞の目的語など”で表します。「手紙を受け取って」(to receive your letter)。この部分も to+V+O「OをVして」とSこそありませんが、3番目の文型となっています。不定詞となっている動詞の主語は、本動詞のSと一致するため明示しません。

ここまでで触れていないことがあります。英文において、数えられる名詞 (今回は letter) を置きたいときは、冠詞の a か an か the、またはそれに代わる this や that、my や his などの所有格を置かなければいけないという決まりがあります。その名詞が1つまたは1人のときは必須です。複数の場合は a, an は置けませんし、なくて済む場合もありますが、some や any、these, those、所有格がよく置かれます。この使い分けについては、別の機会か、個別の質問でお願いします。今回は「あなたの手紙」なので your letter となります。

日本語を再構築すると「私はあなたの手紙を受け取ってうれしかった」となり、

I am happy to receive your letter. I'm glad to receive your letter. などが正解となります。

I'm happy to receive a letter from you. なども考えられます。

内容さえ合っていればいいので、他の文型になるように書き直しても構いません。

5番目の文型、S+V+O+C「SはO=CにVする」を利用して、「あなたの手紙は私をうれしくさせた」と考え、「あなたの手紙は私をうれしい状態につくった」と英文を作ることができます。

これは中2の教科書 P105 の基本文「何かをある状態にする」“make+人・もの+形容詞”に出ています。

Sは「あなたの手紙」、Vは「つくった」、Oは「私(を)」、Cは「うれしい(状態に)」。

Your letter made me glad. Your letter made me happy.

これでいいと思います。

(2) いろいろな科目を勉強できるとわかったということ。

「私はいろいろな科目を勉強できることがわかった」

Sは「私」。「わかった」がV。「いろいろな科目を勉強できること」がO。

S + V + O。大きな骨組みは3番目の文型ですね。

Oの部分は、「私がいろいろな科目を勉強できる」+「こと」と分析できます。そうすると、「私がいろいろな科目を勉強できる」の部分もSとVが入っている英文の形になります。この部分もS + V + Oの3番目の文型。

先にこちらから書くと、「私」がS。「勉強できる」がV。「いろいろな科目(を)」がO。

I can study various subjects.

「勉強できる」は「勉強することができる」と助動詞と動詞の組み合わせ。助動詞 **can** は動詞の前。

この部分全体が **O** になります。このように大きなかたまりの句の中にSとVが含まれるものを節と呼んでいます。Oは名詞系語句の役割なので、名詞節と呼んでいます。

「わかった」の部分は、**realized**「気付いた」、**understood**「理解した」、**learned**「学んだ」などが考えられます。**found**も使えます。

全体では、**I realized + I can study various subjects.** となります。

文の中に節が組み込まれているので、通常は接続詞が要ります。+の部分に名詞節を作る接続詞 **that** を置いてVとOを接着させます。しかし、この **that** は省略されるのが通例となっています。

もうひとつ、主節の動詞が **realized** などの過去形の場合、**that** 以降の節の動詞も過去形になるという原則があります。時制の一致と呼んでいます。

そのため、**I realized (that) I could study various subjects.** とするのが自然です。

しかし、いろいろな教科を学べるのは、これからのことで、現在でもその可能性があるということで、

I realized (that) I can study various subjects. も間違いとは言えません。

realized の部分は、先ほど挙げた動詞に置き換えてもらっても構いません。

(3) 以降は、この紙面では解説できなかったのですが、必要ならば個別に説明します。

やや難しい話になってしまいましたが、対面ではやさしい英文を使いながら説明できますので、疑問に思った点はきいてください。

高校入試までならば、教科書の基本文、重要構文を丸暗記して、使われている単語を入れ替えるくらいでも対応できます。でも、英語の語を並べる規則がわかると自信が持てます。

英語の決まりを習得していくのは時間がかかることですが、一旦身につくと、勘ではなく、しっかりと内容がくみ取れるようになります。高校に入ってから英語学習は続きます。しっかりと基本を習得していきましょう。

